

大桑県営住宅 7・8号棟



昭和40年代に建設された大桑県営住宅の建替にあたっては、バリアフリーや景観への配慮のほか、環境共生をコンセプトに循環型社会への対応など様々な工夫を取り入れた。8号棟の竣工により、大桑団地の建替え事業が完了した。
(全253戸/基本設計はプロポーザル)



車椅子対応住戸 居室



車椅子対応住戸 洗面・トイレ



玄関



サンルーム



■断熱性能の向上と省エネルギー

断熱性能は次世代省エネルギー基準(性能評価等級3)に適合。外断熱工法の採用により暖冷房によるエネルギー損失を最小限に抑えられるよう計画した。

■長期耐用性の確保

長寿命の躯体と内装を明確に分離した構成(スケルトンインフィル分離方式)としている。躯体より寿命の短い内装、設備を後から更新しやすいよう配慮した。維持管理の容易性も考慮し、住戸内の給水・給湯にはさや管ヘッダー方式を採用した。

■景観・環境共生

黒瓦葺の勾配屋根を採用し、また圧迫感を解消するため敷地の周囲では階数を抑え、周辺の街並みとの調和を図っている。また、敷地内には親水空間を設け、せせらぎの水は太陽光発電エネルギーにより貯留槽に貯めた雨水を循環させている。

■バリアフリー

床の段差を解消し、各室の出入口には引き戸としてかつ幅員を確保した。玄関、浴室、トイレ等には手すりを設置し、玄関には靴の履き替えのためのベンチを設けた。また、1階には車椅子対応住戸を設けている。

■多様なライフスタイルに対応した住戸計画

1LDKから3LDKまで多様な規模、構成の住戸を供給し、また居室の引き戸を取り外すこと等により住戸内の可変性能を確保している。

DATA

①居住施設

金沢市大桑地内

(7号棟)平成18年10月～平成19年8月

鉄筋コンクリート造:地上4F 38戸

のべ2,776.47㎡

(8号棟)平成22年2月～平成23年2月

鉄筋コンクリート造:地上4F 31戸

のべ2,495.69㎡